



鶴ヶ島第二小 学校だより

《学校教育目標》

- ・思いやる
- ・進んで学ぶ
- ・体をきたえる

一歩 前へ！

令和8年8月28日
第6号

校長 山崎 真由美



さあ 2学期スタート！

長かった夏休み期間を終え、子ども達の声が学校に戻ってきました。子ども達の声がそこかしこから聞こえてくると、学校が生き返る感じがします。

夏休み期間、大きな事故の報告はなく、どの子も楽しく夏休みを過ごしてきたことが表情からも伝わってきます。さまざまな体験をして、少し成長した子ども達の姿がまぶしく感じた始業式でした。

さあ、2学期のスタートです。2学期は、子どもたちが楽しみにしている運動会、修学旅行、宿泊学習等、大きな行事が予定されています。学力も体力も、今まで以上に力を入れ「実りの秋」となるよう、教職員一同がんばってまいります。様々な活動の中で、子どもたちがさらに大きく成長するとともに、保護者・地域の皆さまの前で活躍する姿をご期待ください。



めざす学校像

「一人一人の瞳が輝き、あたたかい学校」



めざす児童像

- 自分も人も認め、大切にする子
- 学び合う子
- 失敗をおそれず、挑戦する子

【再掲】 9月の行事予定〔長月・ながつき〕

9/1	火	学級の時間、短4日課（下校 13:35 頃）、給食開始、避難訓練、発育測定（4、5、6年）	16	水	クラブ⑥
2	水	発育測定（な、1、2、3年）、委員会⑤	17	木	1年生以外4時間授業 13:35 下校（授業研究会のため）1年生下校 15:00
3	木	ロング昼休み	18	金	ふれあいデー（教職員が定時退勤します）
4	金	PTA 本部会	19	土	【鶴二小ホームページのQRコードです。】
5	土		20	日	
6	日		21	月	
7	月	読書/読み聞かせ	22	火	国民の祝日
8	火	学校運営協議会、運動会色決め抽選会 放課後のびのび算数教室初日	23	水	秋分の日
9	水	租税教室（6年・4校時）、クラブ⑤	24	木	たてわり活動④（鶴二小祭り話し合い） PTA 本部会・運営委員会③
10	木		25	金	1・2年生校外学習（こども自然動物公園）
11	金	特別金曜日課（1～3年5時間、4～6年6時間）、おかわりミント	26	土	
12	土	土曜公開日（特別日課 2～4校時公開・時間割は月曜日）下校 12:25 頃	27	日	
13	日	どの時間でも参観できます。地域の方もぜひお越しください	28	月	お話朝会、運動会練習開始
14	月		29	火	なやみごとアンケート、1・2年生校外学習予備日
15	火	児童朝会	30	水	応援練習、委員会⑥

《鶴ヶ島市の基本的生活習慣の合言葉》 早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち

学校の代表として広島に派遣されました

鶴ヶ島市の『広島市平和記念式典児童派遣事業』により、6年生、
さんが、市内8小学校の代表児童と一緒に広島に行き、式典に参加してきました。

22日（土）の平和記念式典児童派遣事業参加者報告会では、平和について真剣に
学んできたことがよく伝わり、市民の皆さんに向けてもしっかりと報告できました。

始業式でも、報告会の時の作文を全校に向けて読んでもらいましたので、紹介しま
す。



「広島で学んだ平和の大切さ」

6年

みなさんは、「平和」について深く考えたことがありますか。私は今回の広島への派遣に参加するまで戦争や原爆について深く考えたことがありませんでした。テレビで戦争のニュースを見ても、遠くで起きている出来事のように感じていました。

参加するきっかけになったのは、母から子どもの頃に広島で平和学習をしたことがあると聞いたことです。母の話を聞き、私も広島へ行って自分の目で見て、自分の耳で聞いてみたいと思いました。

初めて広島を訪れると、高いビルが建ち並び、多くの人が行き交っていました。ここが81年前に原子爆弾が落とされた場所だということを一瞬忘れそうになりました。

しかし、原爆ドームを目の前にすると、その気持ちは変わりました。周りの街が新しくなっていく中で、原爆ドームだけは時間が止まったように残っていました。「この出来事を忘れないで」と今も訴えかけているようでした。

平和記念資料館では、本で読んでいたよりずっと衝撃的でした。焼け焦げたお弁当や三輪車、ちぎれた洋服を見ました。それを使っていた人にも家族がいて毎日の生活や未来があったはずです。

私は見たことや聞いたことを忘れないようにたくさんメモを取りました。そして被爆者の河野さんから、直接お話を聞きました。

河野さんは原爆が落とされた後、お姉さんを探すために広島市内に入りました。そこには焼け野原が広がり、言葉では表現できないようなにおいが残っていたそうです。3000度から4000度にもなる熱で大やけどを負った人たちを見て、「人間とは思えなかった」と話してくださいました。

さらに、放射線を浴びたことでその後亡くなった人もいたそうです。一発の原子爆弾で約14万人の人が亡くなりました。

河野さんの話を直接聞いて、原爆は一瞬で多くの人の命を奪うだけではなく、その後も人を苦しめ続けるものだと思いました。

そして河野さんは「世界中の人に伝えたい。命を大切にしてほしい。これからも伝え続けて欲しい。」と話してくださいました。私は河野さんの「恐ろしい光景は二度と忘れない」という言葉と、何かを伝えようとする気持ちが心に残りました。

平和記念式典で聞いた子ども代表の言葉にも、「被爆体験を直接聴くことができる最後の世代として、当時の記憶を事実として受け止める使命があります。」とありました。

目をそらさず知ろうとすること。悲しい現実でも向き合うこと。それが私たちにできることなのだと学びました。

8月6日の午前8時15分。私はその時間、宿題をしたり、ゲームをしたり、友達と過ごしています。でも81年前の広島では、その時間に多くの人の当たり前の日常が一瞬で奪われました。



今も世界では戦争が起き、尊い命が奪われています。戦争は絶対に許してはいけません。二度と繰り返してはいけません。だから私は、広島で見たことや聞いたことを忘れず、家族や友達に伝えていきます。

81年前の広島で起きたことを二度と繰り返さないために。河野さんから受け取った「命を大切にしてほしい」という願いを、次の世代につなげていきます。